ダークエルフVSエイリアン

成人向
FOR ADULT ONLY

BUTCHA-U PRESENTS
2015 WINTER

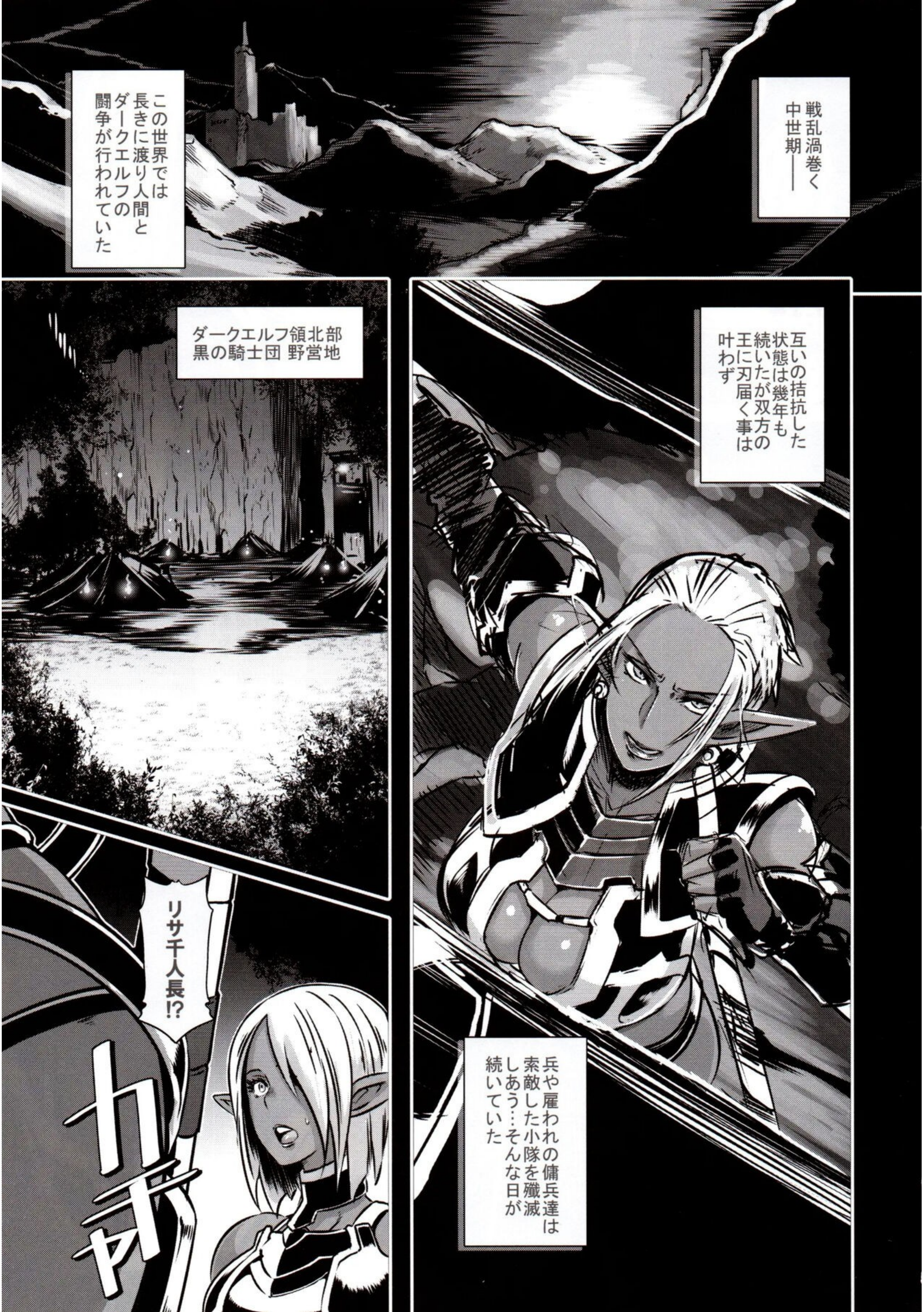
EROQUIS!

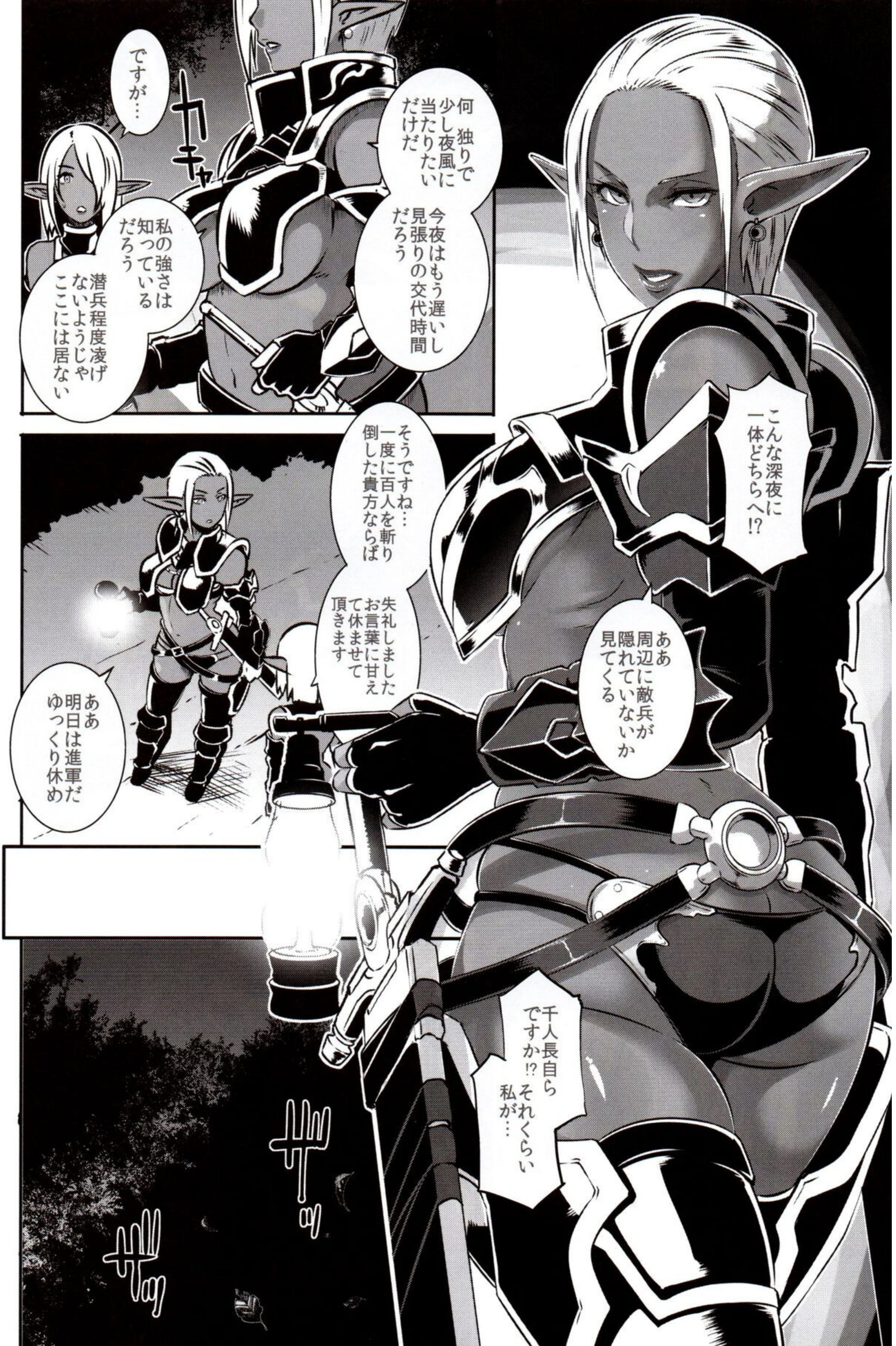
DARK ELF
VS
ALIEN

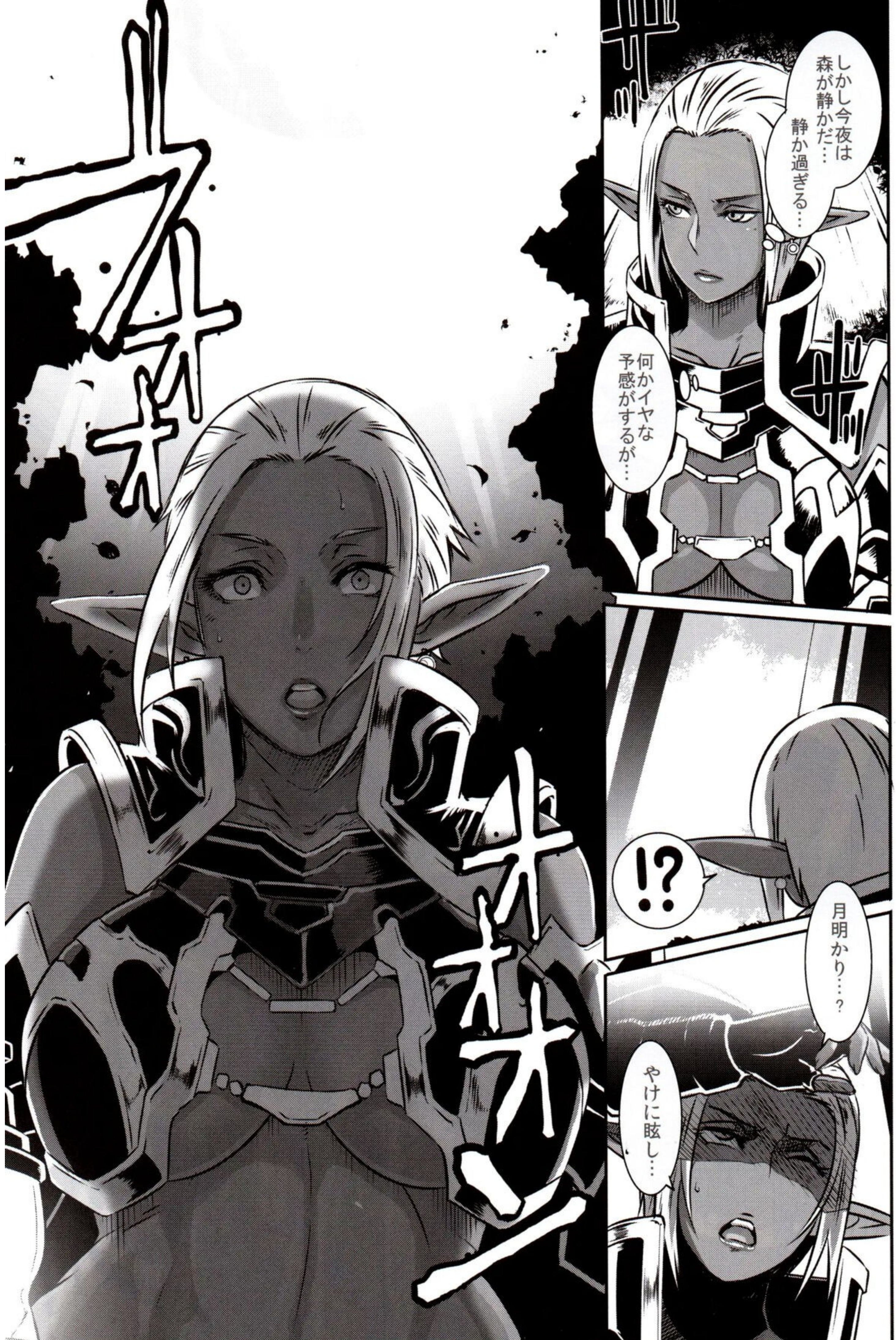
ダークエルフVSエイリアン

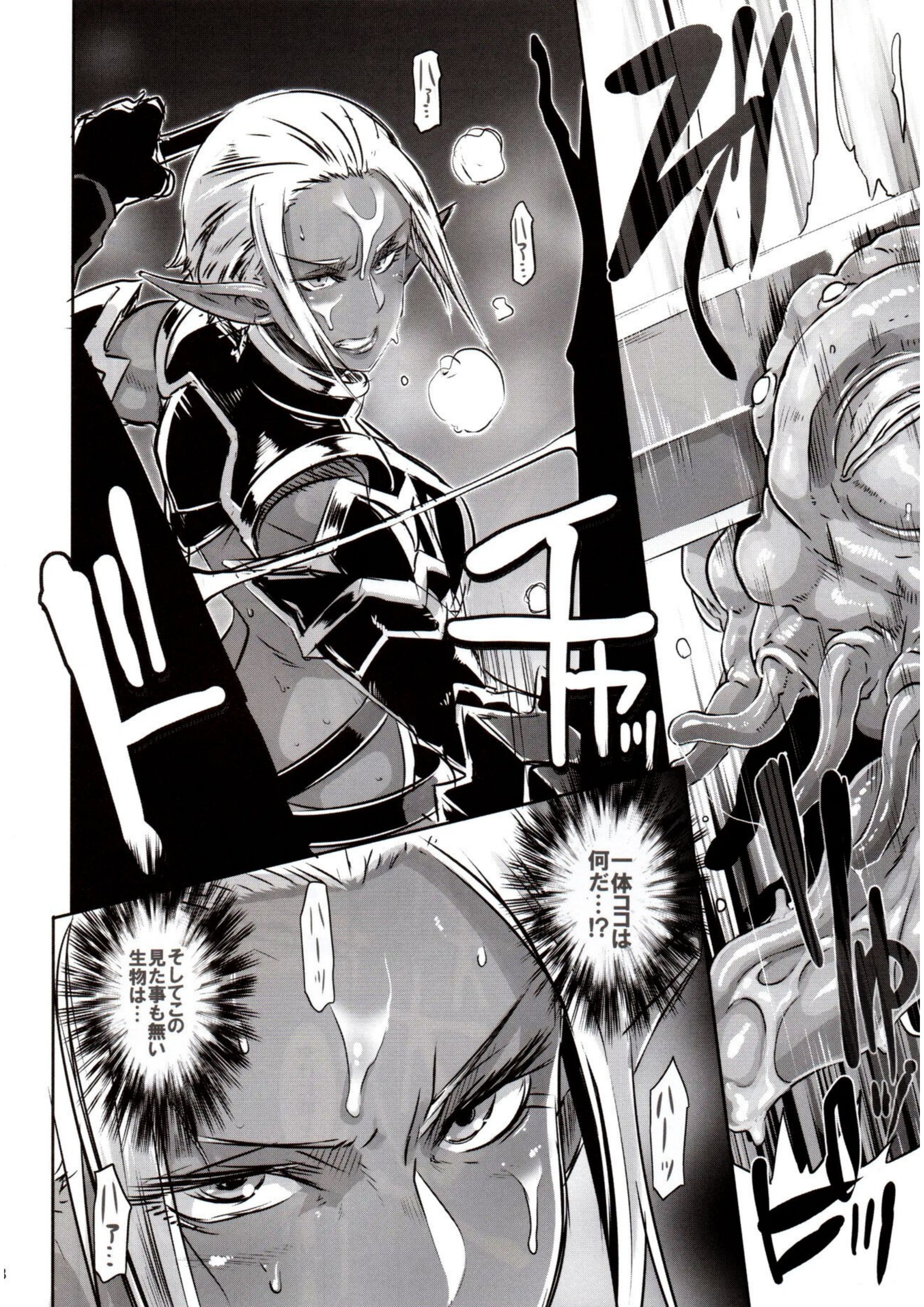
この作品は18歳未満には対応しておりません。
複製・転載・転売・インターネットへのアップロードは固く禁じております。
オリジナル作品の為、法的な借地を取る場合がありますのでご注意ください。

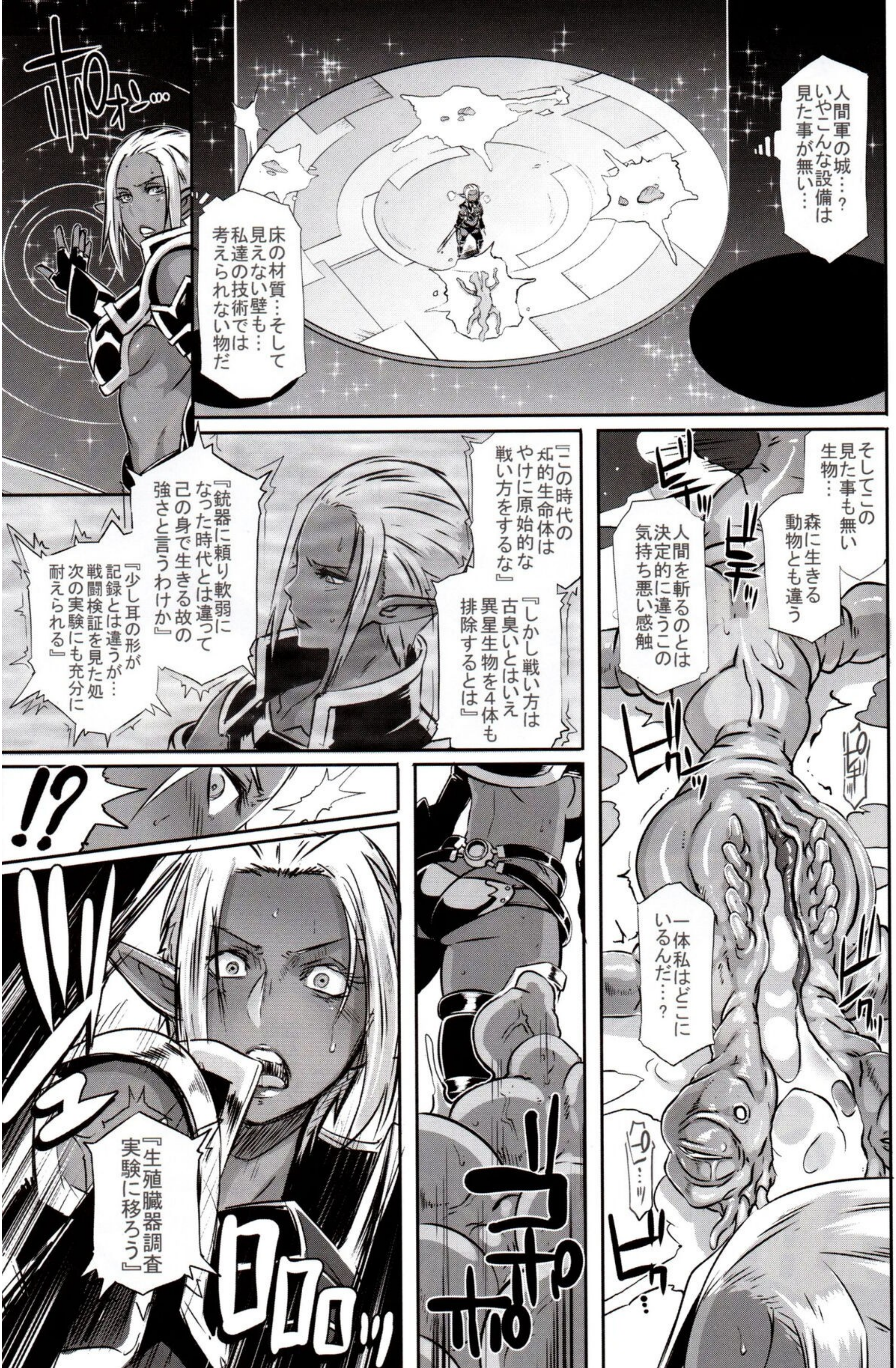
This work does not correspond to less than 18 years of age.
Upload of replication, reproduction, to resell Internet, we have strictly prohibited.
For the original work, it may take legal leasehold Please note.

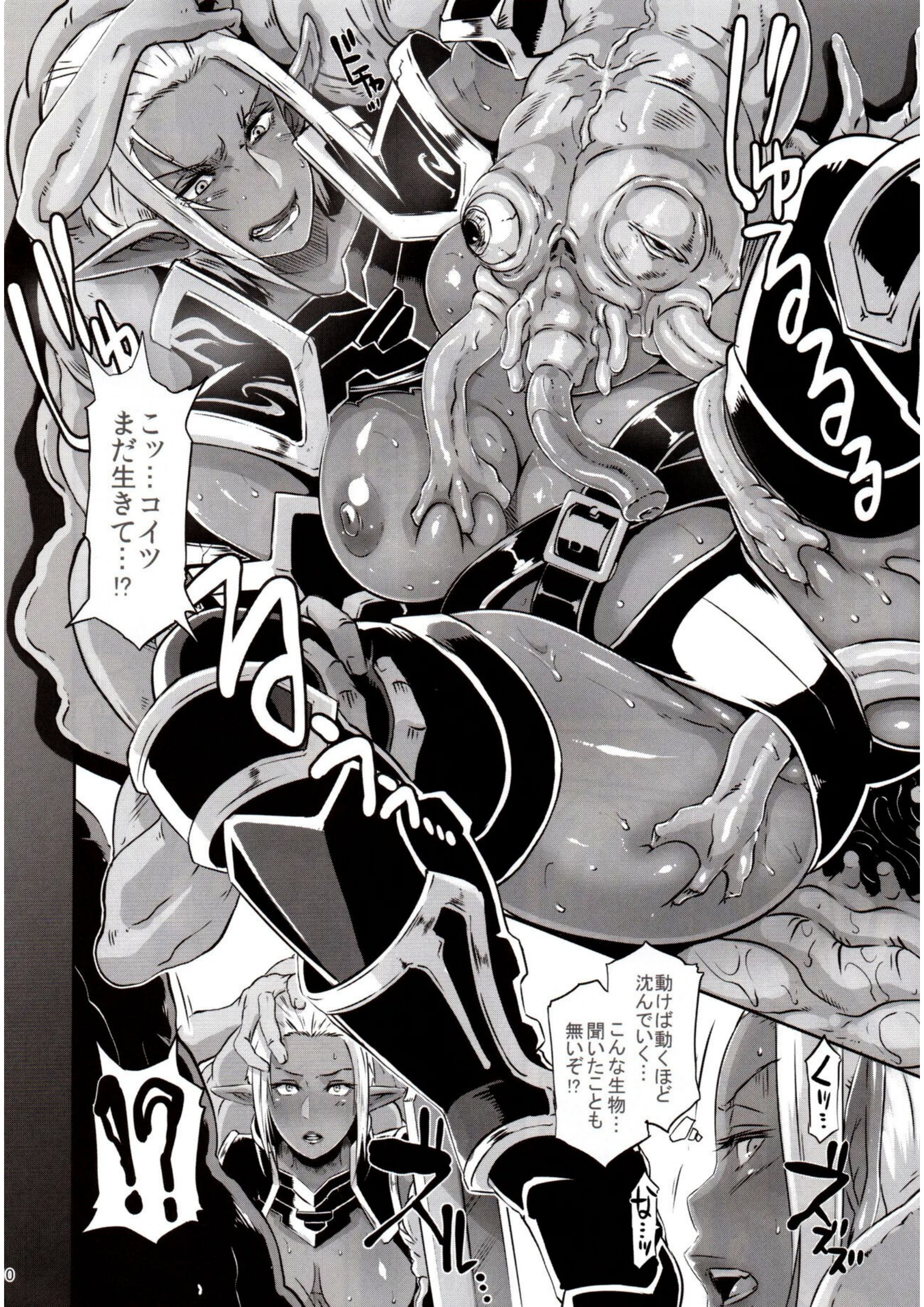

戦乱渦巻く
中世期——
この世界では
長きに渡り人間と
ダークエルフの
闘争が行われていた
互いの拮抗した
状態は幾年も
続いたが双方の
王に刃届く事は
叶わず
兵や雇われの傭兵達は
索敵した小隊を殲滅
しあう…そんな日が
続いていた
ダークエルフ領北部
黒の騎士団 野営地
リサ千人長!?
カチャ

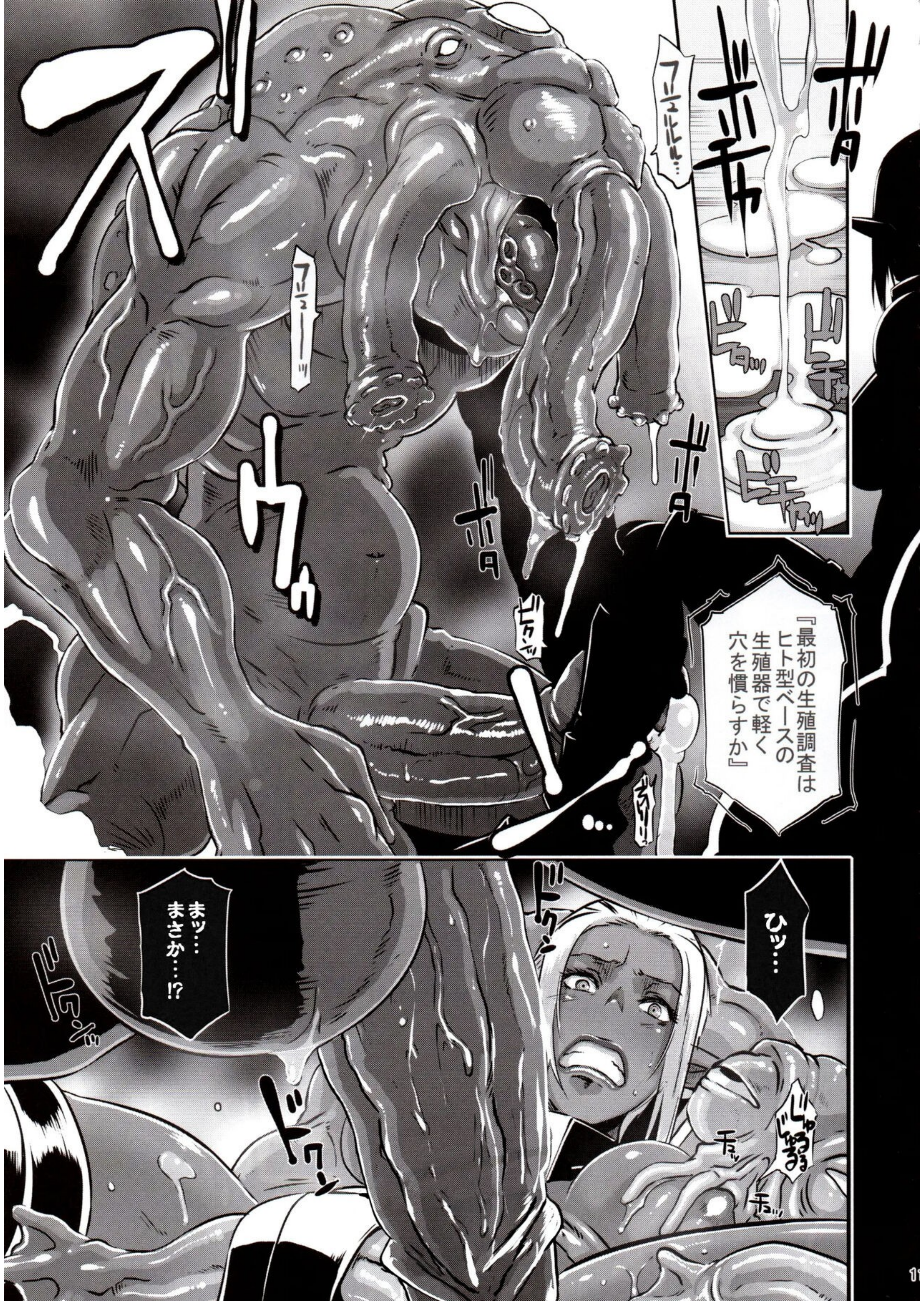

こんな深夜に一体どちらへ!?
ああ 周辺に敵兵が隠れていないか見てくる
千人長自らですか!? それくらい私が…
何 独りで少し夜風に当たりたいだけだ
今夜はもう遅いし見張りの交代時間だろう
カチャ
ですが…
私の強さは知っているだろう
潜兵程度凌げないようじゃここには居ない
そうですね…一度に百人を斬り倒した貴方ならば
失礼しました お言葉に甘えて休ませて頂きます
ああ 明日は進軍だ ゆっくり休め
ザッ
ザッ

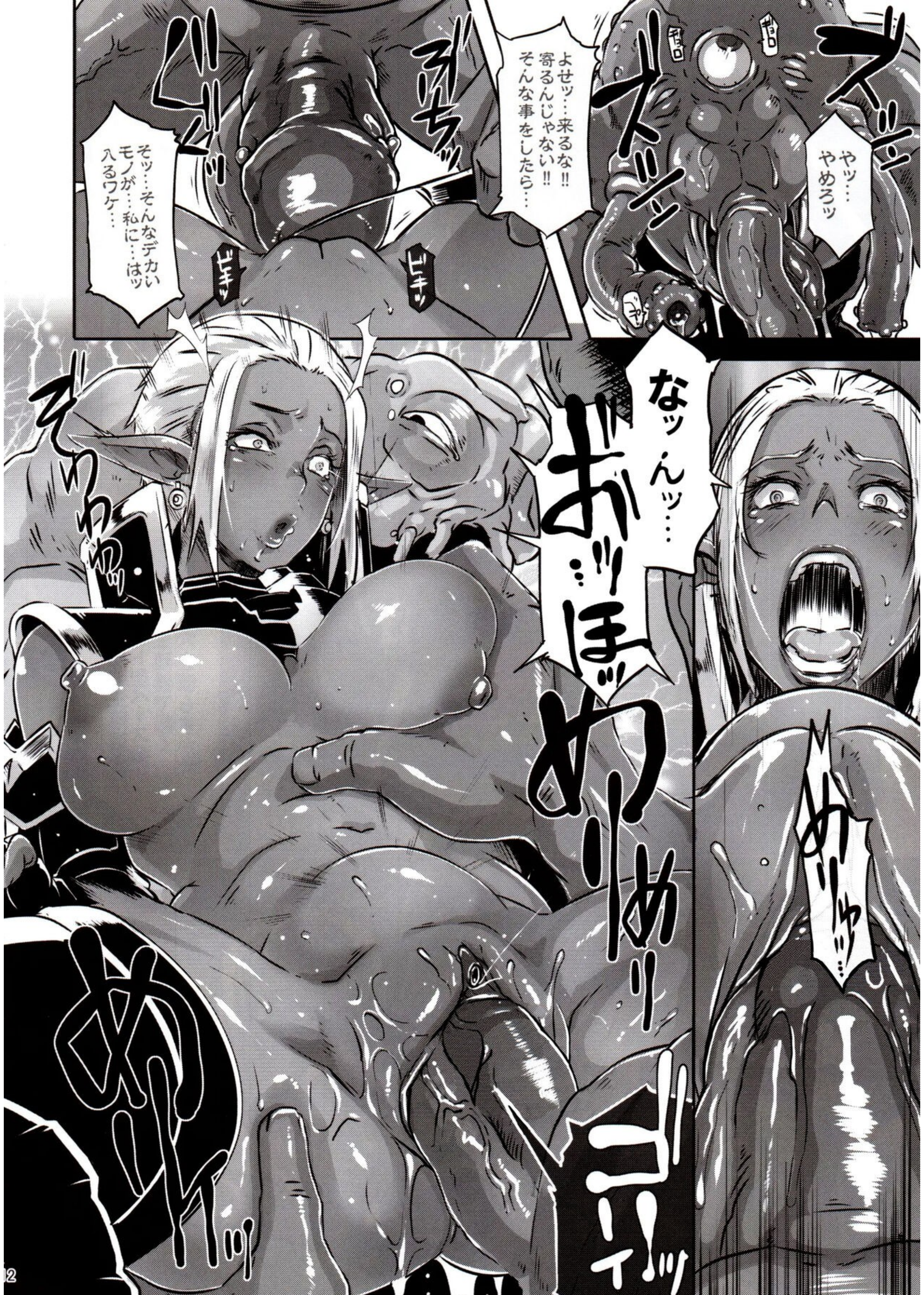

ザッ
しかし今夜は森が静かだ…
静か過ぎる…
何かイヤな予感がするが…
ザッ
!?
月明かり…？
やけに眩し…
ゴォオ
オオオン

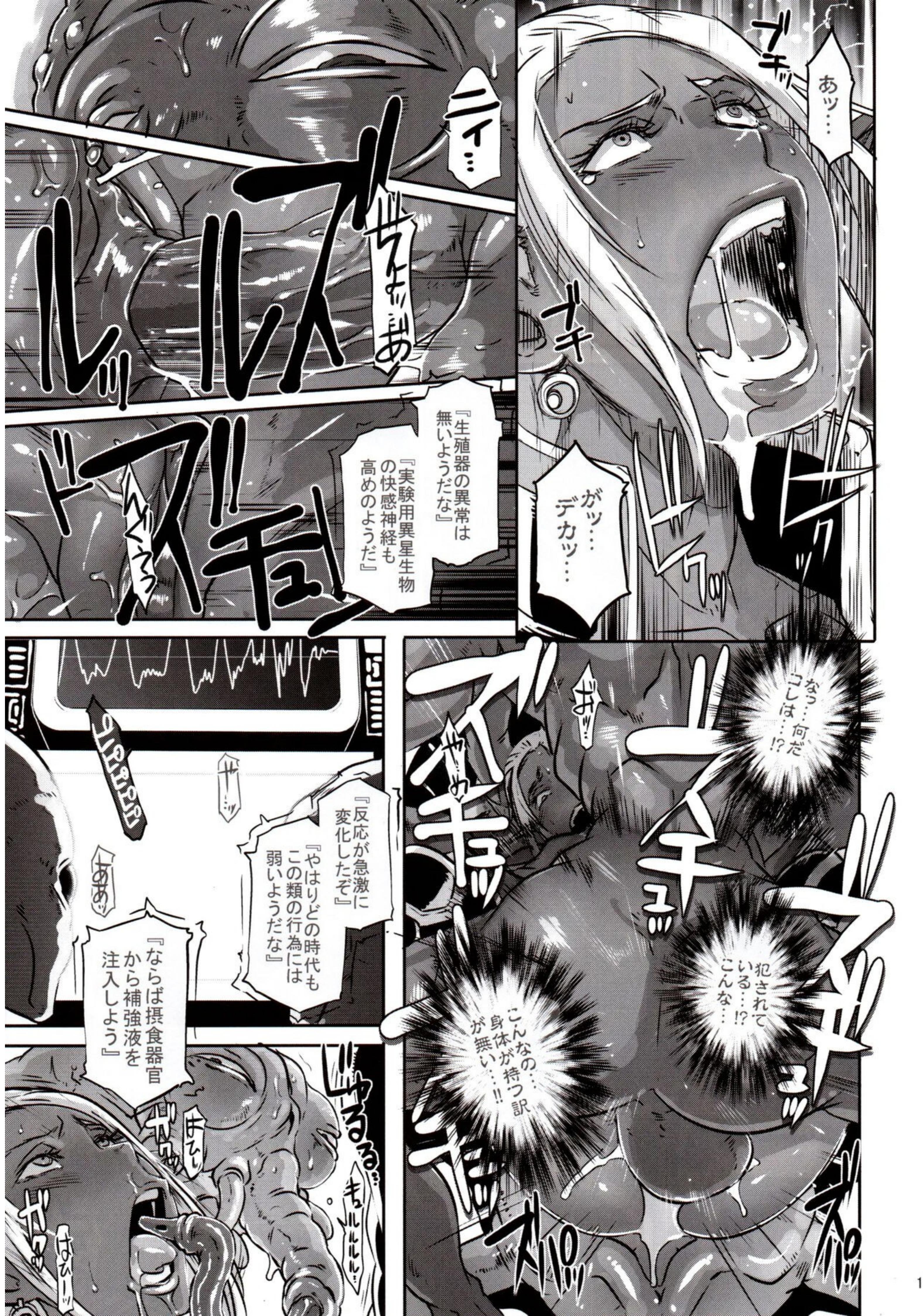

ズ
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ドチャッ
一体ココは何だ…!?
ハ…ッ
そしてこの見た事も無い生物は…
ハーッ
ハ…ア…
ビリ


人間軍の城…？
いやこんな設備は見た事が無い…
床の材質…そして見えない壁も…私達の技術では考えられない物だ
ホワォン…
そしてこの見た事も無い生物…
森に生きる動物とも違う
人間を斬るのとは決定的に違うこの気持ち悪い感触
ビキ
ビキ
ビキッ
ビクッ
ピクッ
『この時代の知的生命体はやけに原始的な戦い方をするな』
『しかし戦い方は古臭いとはいえ異星生物を4体も排除するとは』
『銃器に頼り軟弱になった時代とは違って己の身で生きる故の強さと言うわけか』
『少し耳の形が記録とは違うが…戦闘検証を見た処次の実験にも充分に耐えられる』
一体私はどこにいるんだ…？
ビクッ
ピクン…
ビクッ
ゴポ
ポポ
!?
ロロロッ
『生殖器調査実験に移ろう』


じゅるるるる
ドチュ
じゅ
コッ…コイツ
まだ生きて…!?
ぬぷぷ…
動けば動くほど
沈んでいく…
こんな生物…
聞いたことも
無いぞ!?
く…ッ…
ズズズ
な…ッ
ズル…
!?

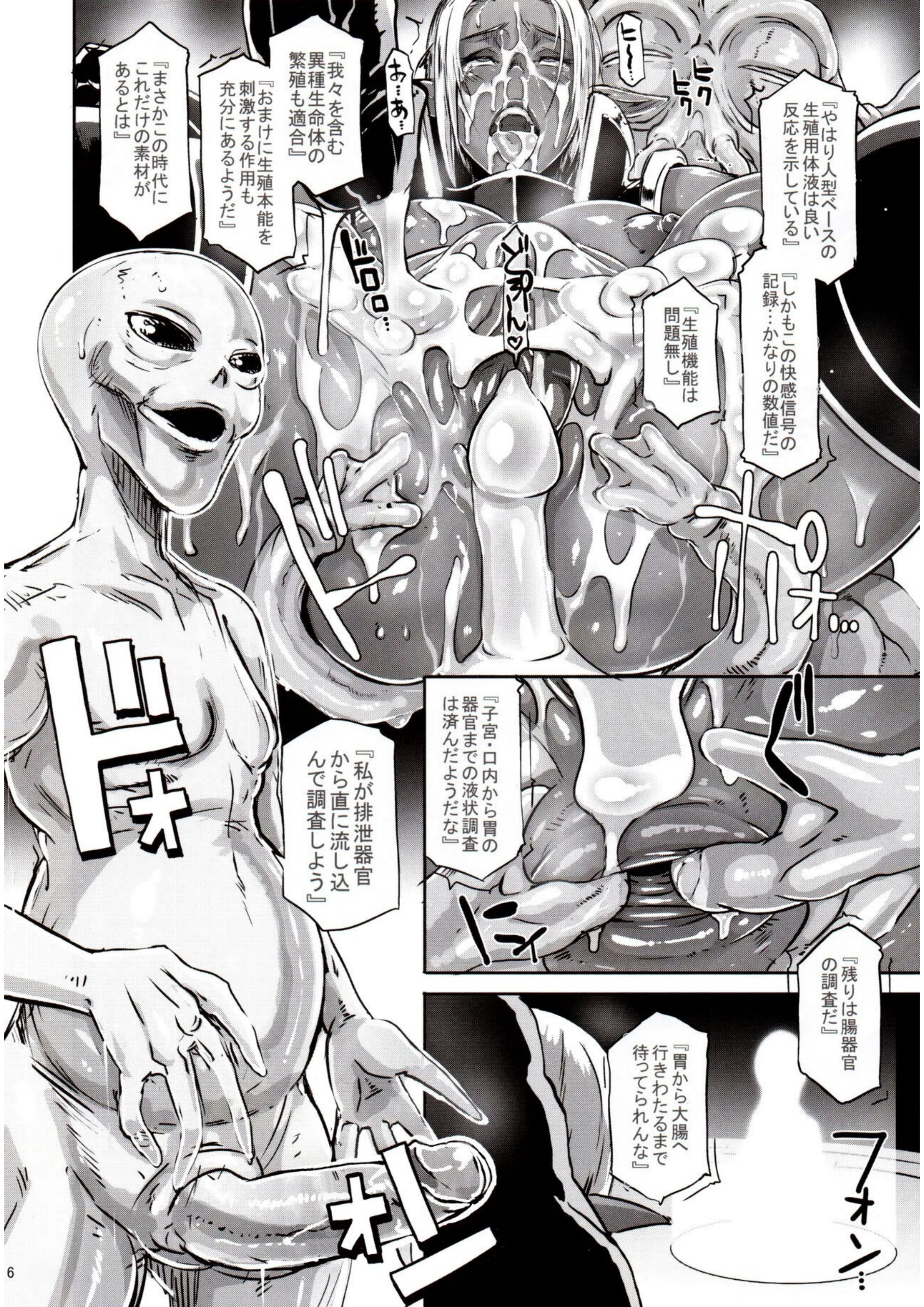

ボタ
ボチャ
ビチャ
ビタッ
ビチャァッ
『最初の生殖調査はヒト型ベースの生殖器で軽く穴を慣らすか』
フシュルル…
ボタ
ビクッ
ボタリ…
フシューーッ
ウゥゥ
ズ
ひッ…
ドクン
まッ…まさか…!?
ドクン
ドクン
ドクン
じゅるるる
チュッ
チュッ

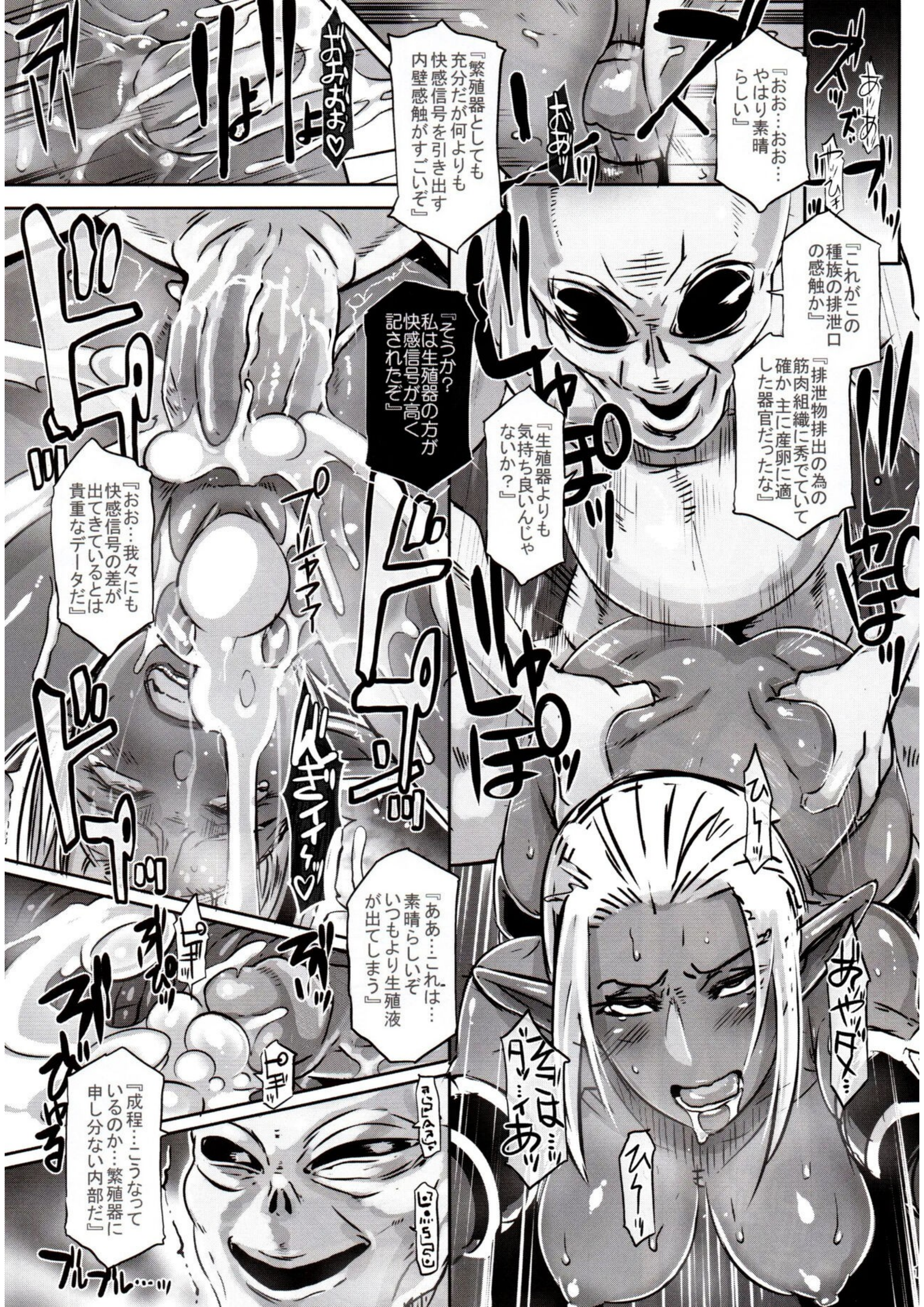

ズンッ
やッ…
やめろッ
ズズンッ
ギロ
ギロ
ゴポ
よせッ…来るな!!
寄るんじゃない!!
そんな事をしたら…
ぬぢッ
ぐりりッ
そッ…そんなデカい
モノが…私に…はッ
入るワケ…
ビキッ
ビキッ
めりゅッ…
なッんッ…
おッほッ
めりめりめりッ
ゴリィ!!ッ
ざわわわッ
めりィッ

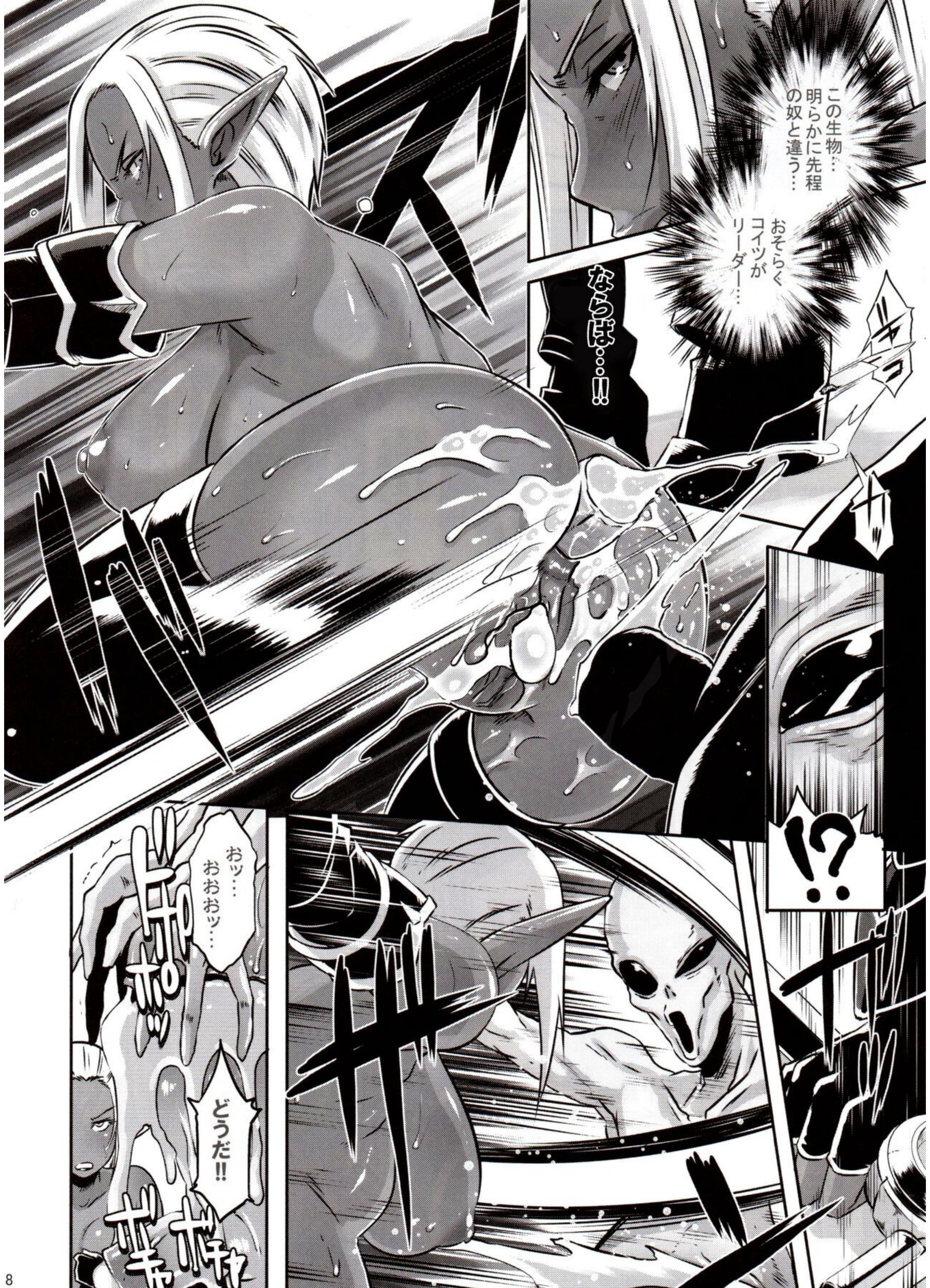

ブチッ
あッ…
ブチ
ガッ…デカッ…
ビクッ ビクッ ビクンッ
ニィ…
ブルブルッ
ぜぇっ あ
『生殖器の異常は無いようだな』
『実験用異星生物の快感神経も高めのようだ』
ドプッ ブチュッ
んぐぅっ
なっ…何だコレは…!?
おッ…
やめっ
ブチュ
ヌチュ
犯されている…!? こんな…
こんなの…身体が持つ訳が無い…!!
ズパッ
ズパッ
ピピピピピ
ザー
あぁっ
『反応が急激に変化したぞ』
『やはりどの時代もこの類の行為には弱いようだな』
『ならば摂食器官から補強液を注入しよう』
じゅるるる…
きゅルルル…
はひっ
ガクッ
はひーッ
ガクッ

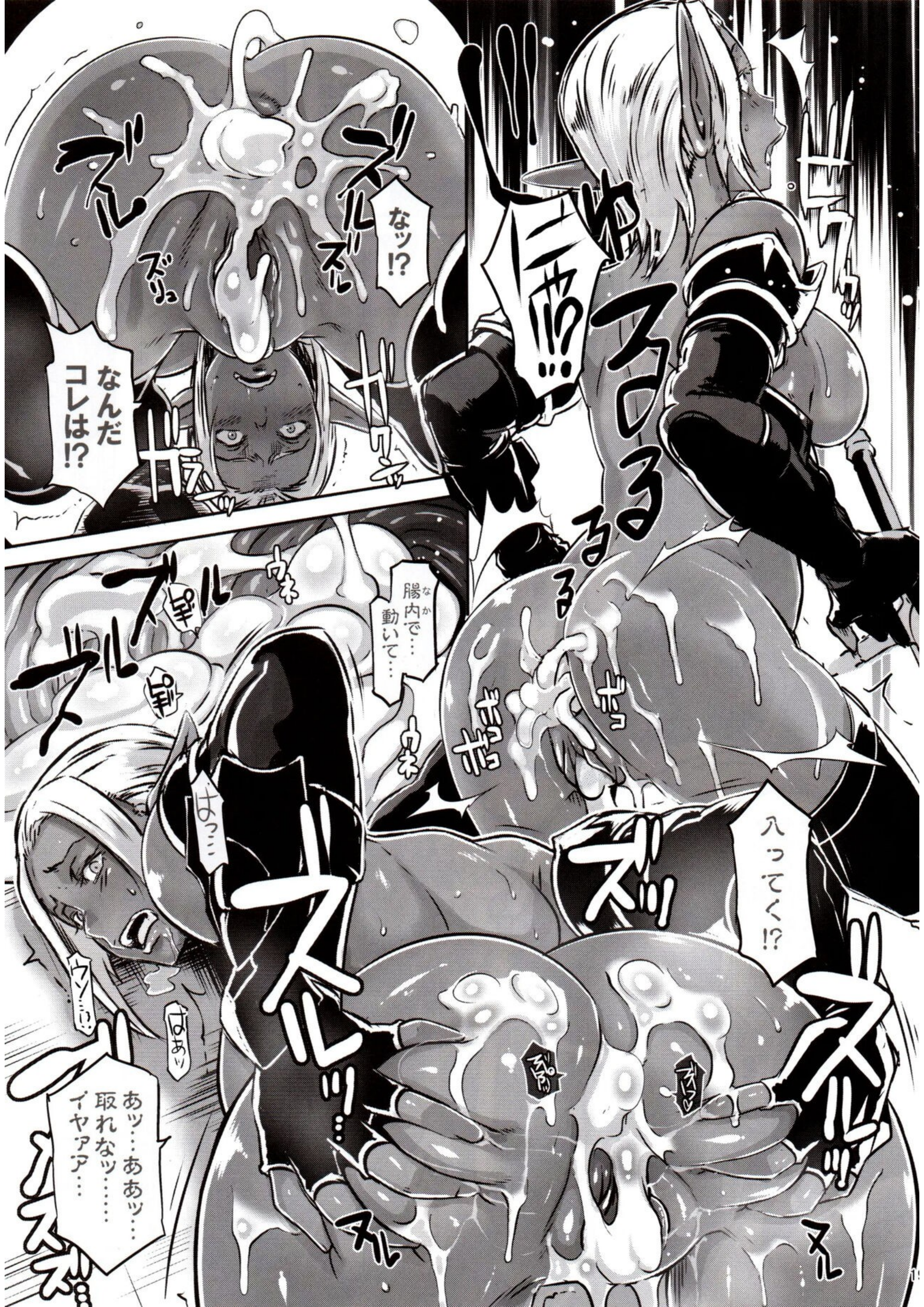
ゴプンッ
びたっ
んぁあッ
『おっと…外れてしまった』
『まあ外皮も後で改造するだろうから問題無い』
ガボッ
もぢゅーッ
ビュポポポ
ぶぴっ
ポポポ
『呼吸器官に流れないよう気をつけろ』
ガクガクッ
みぢぢ
ガクッ
んんッ
『生殖器調査の生物もそろそろ生殖液を出すぞ』
パンパン
んーッ
んんッ
パンパン
『子宮の奥までたっぷりと流しこめ』
ビクッ
ビクッ
ドプーッ

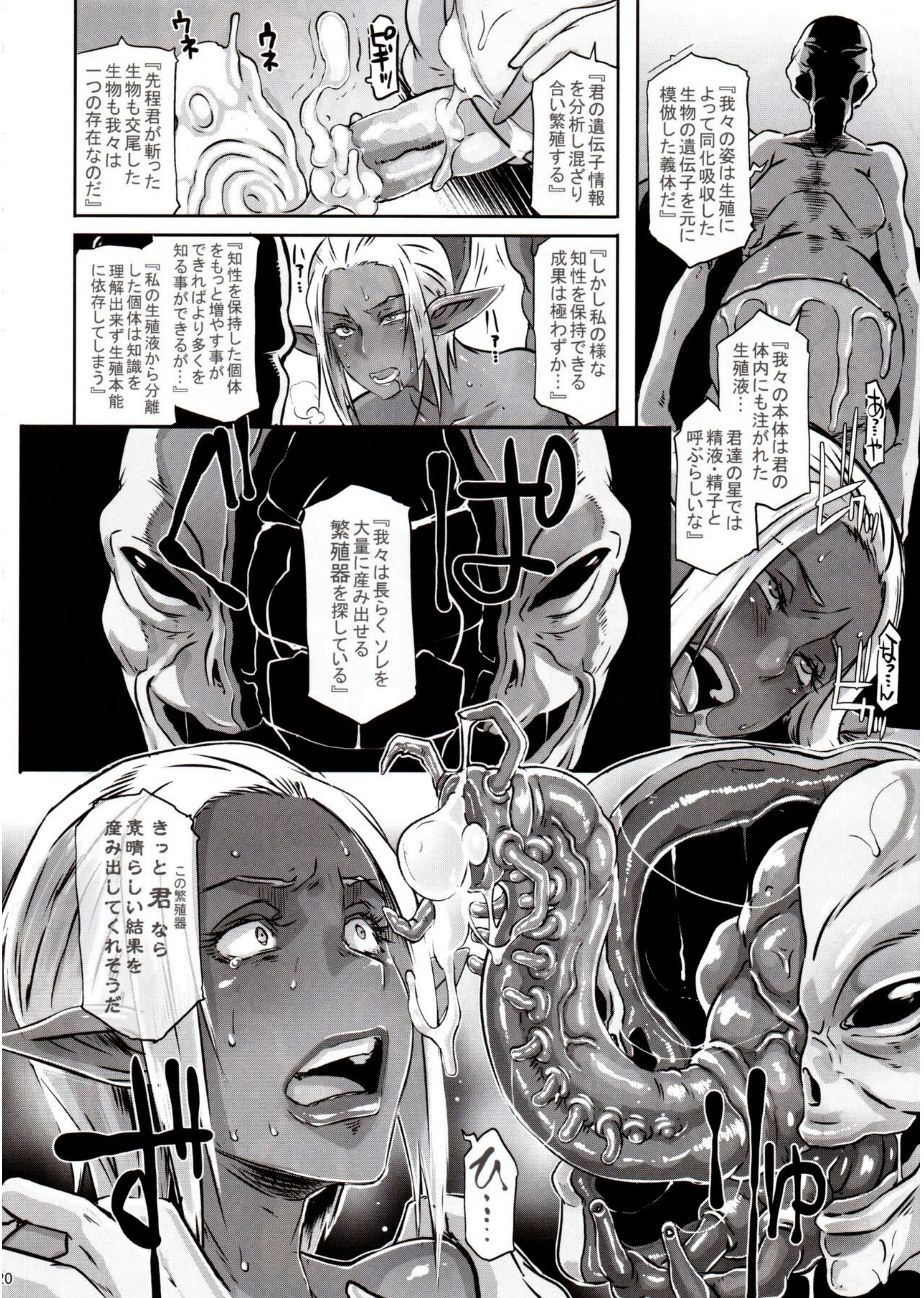
ドビュッ
ドクッ
んぶんんん…!!!!
だぷ
だぷ
どぷぷぷぷ
ドブッ!!!!
ドプッ!!
ビュプッ
ゴキュ
ビクッ
ビクッ
んぶぶ…
ドプッ
ごきゅ
ドュルンッ
ずろろっ
んぶー
ビクッ
ズルル…!
んっ…んっんっ
ごくっ
ずぶっ
ぬぷっ
ぱぁ

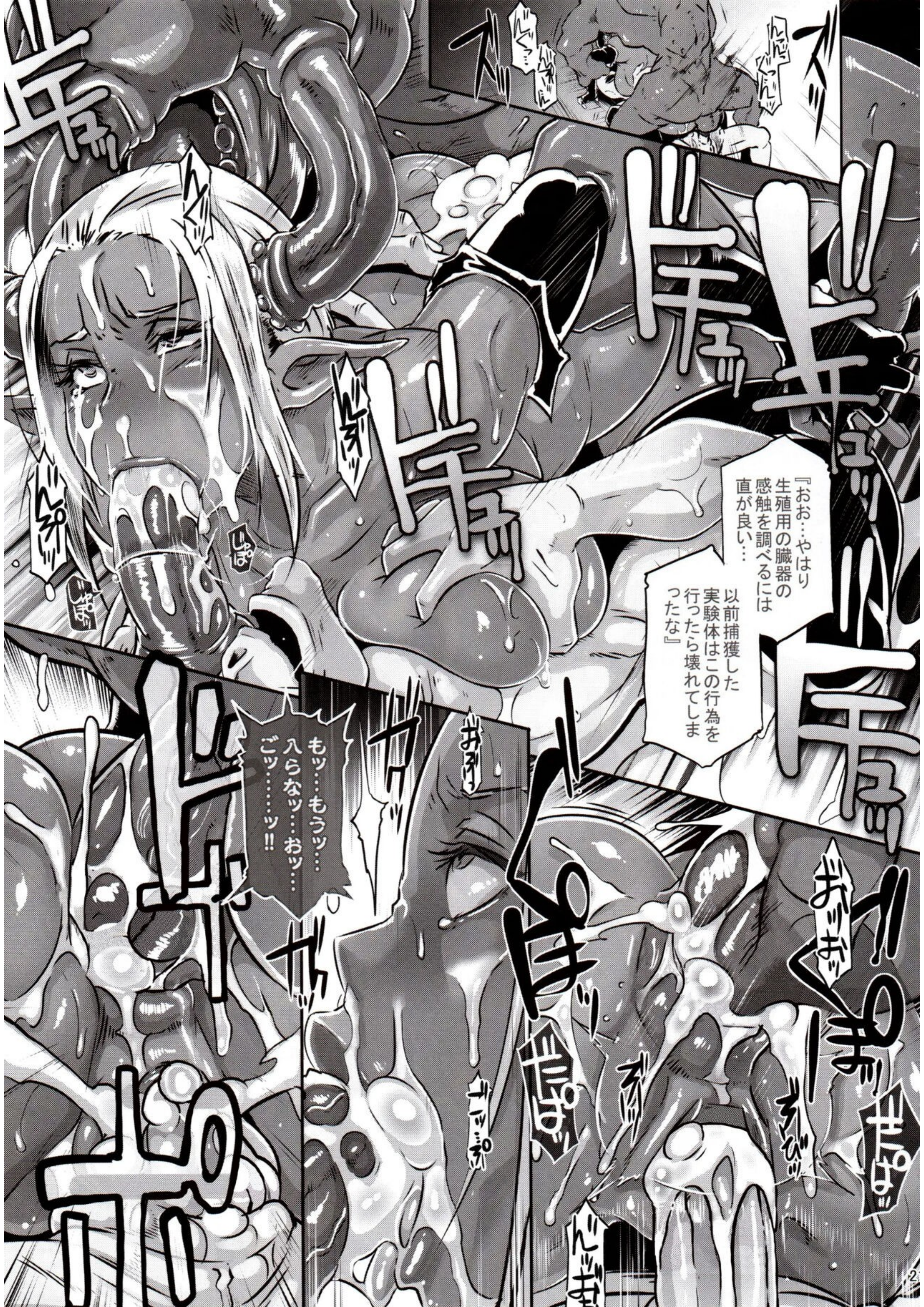

ヒ〜…
ヒクヒク
『やはり人型ベースの生殖用体液は良い反応を示している』
『しかもこの快感信号の記録…かなりの数値だ』
『生殖機能は問題無し』
あ…あ…
どぷん♡
ドロロ…
『我々を含む異種生命体の繁殖も適合』
『おまけに生殖本能を刺激する作用も充分にあるようだ』
『まさかこの時代にこれだけの素材があるとは』
ドト
ポリオ…
ぐ
ドィ
『子宮・口内から胃の器官までの液状調査は済んだようだな』
『私が排泄器官から直に流し込んで調査しよう』
ドッオ
オー
『残りは腸器官の調査だ』
『胃から大腸へ行きわたるまで待ってられんな』
フォン…

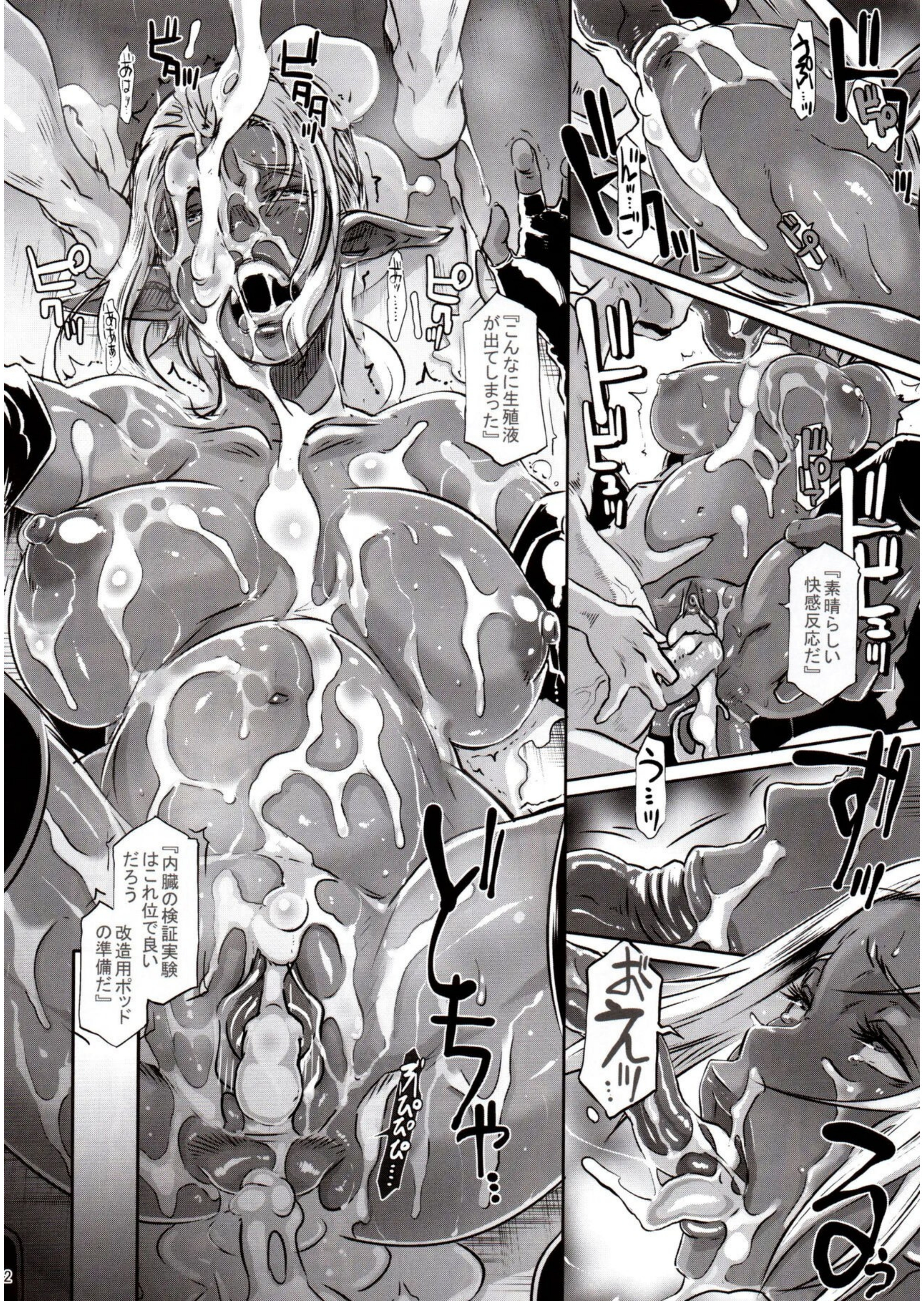

オッズブッ
あっあっ
ずっ
やっひぃ
ブ
『おお…おお…やはり素晴らしい』
おあッ
!!
『繁殖器としても充分だが何よりも快感信号を引き出す内壁感触がすごいぞ』
おおおお♥
ほ!!ほ!!
『これがこの種族の排泄口の感触か』
『排泄物排出の為の筋肉組織に秀でていて確か主に産卵に適した器官だったな』
じゅぽぽッ!!
しゃぽッ!!
『生殖器よりも気持ち良いんじゃないか？』
『そうか？私は生殖器の方が快感信号が高く記されたぞ』
じゅぽッ
じゅぷぷッ
ぶぴゅっ
ぷりゅアア
『おお…我々にも快感信号の差が出てきているとは貴重なデータだ』
ひくッ
あやダメ…
ダメ…ぇはあッ
ひくっ
んぎぃイイッ♥
『ああ…これは…素晴らしいぞいつもより生殖液が出てしまう』
ピギッ
ぶびゅ
ピギッ
ずびゅ
ずびゅ
『成程…こうなっているのか…繁殖器に申し分ない内部だ』
ぴゅるるる
プルプル…ッ

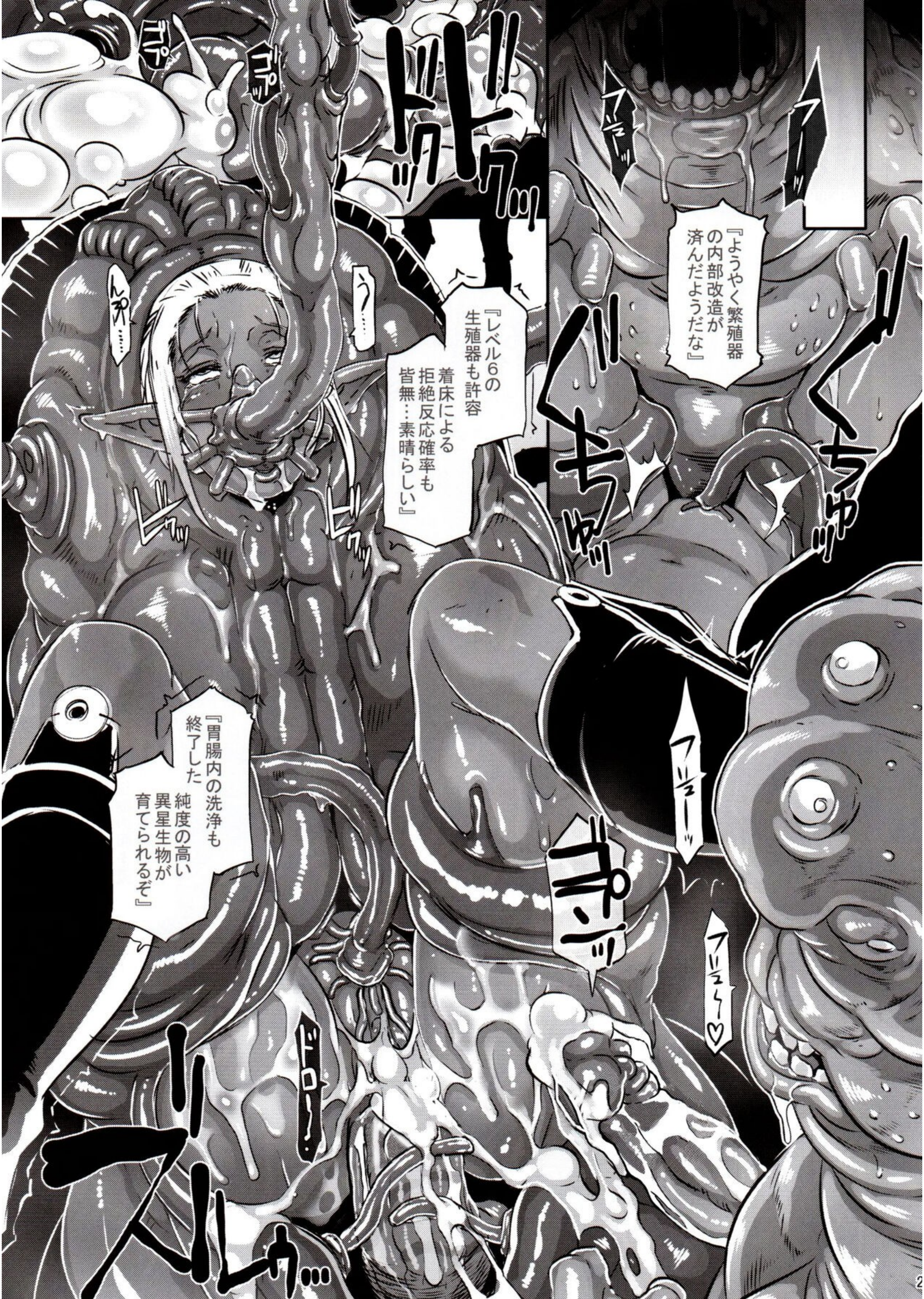

この生物…
明らかに先程
の奴と違う…
おそらく
コイツが
リーダー…
ならば…!!
ギュッ
!?
おッ…
おおおッ…
どうだ!!
ドポポポッ
ボチャ
ボチャ

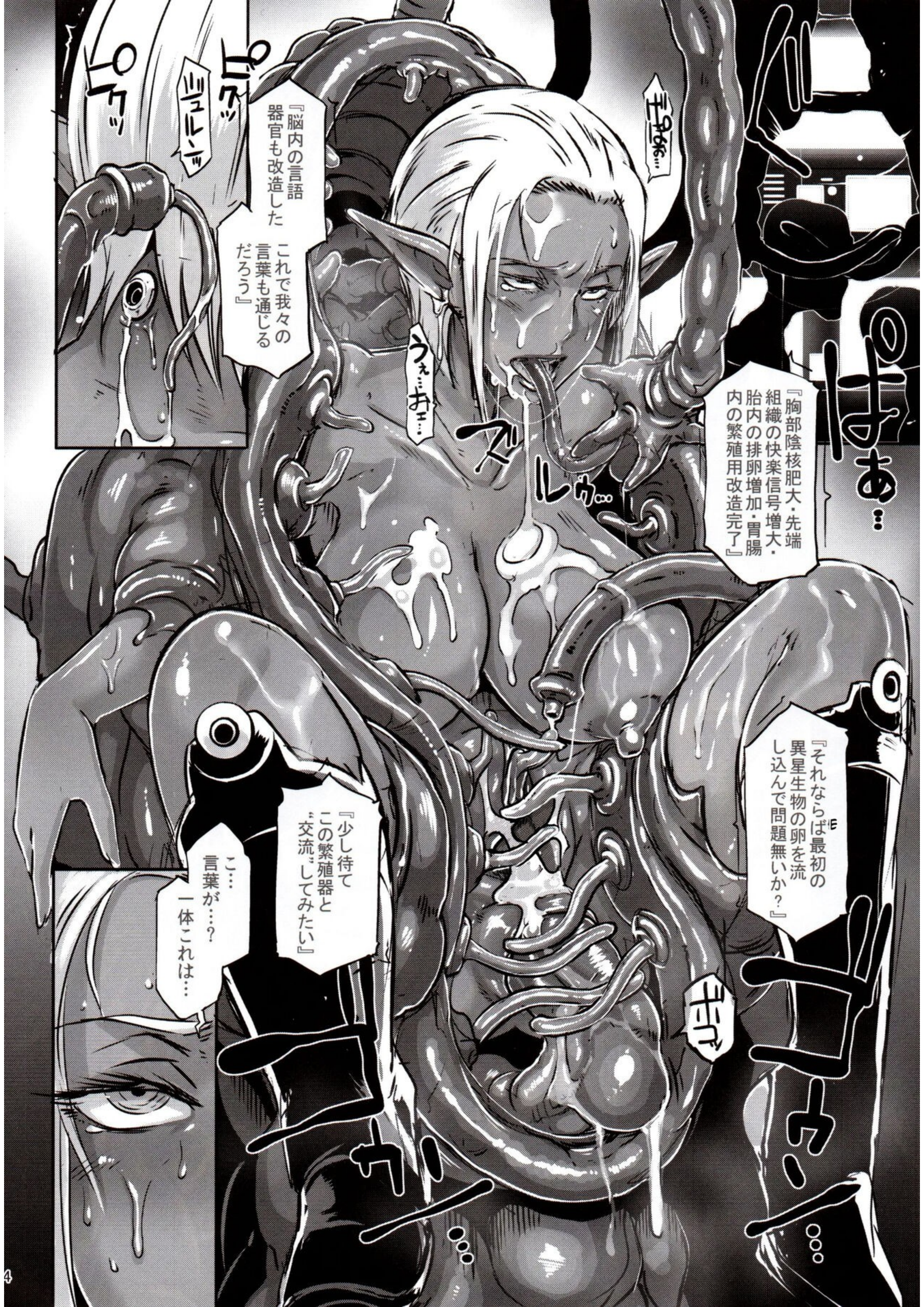

ビクッ
ゆるるるる
ニャ!?!!
ズル
ズルル
ズリュ
なッ!?
ガクガク
なんだコレは!?
腸内で…動いて…
ウネ
ウネ
ズル
ズル
ボコ
ボコボコ
入ってく!?
ズッ
ズルルッ…
はっ…
ヌル
ヌル
ウン…
はあッ
あッ…ああッ…取れなッ……イヤァァ…
ズズ…

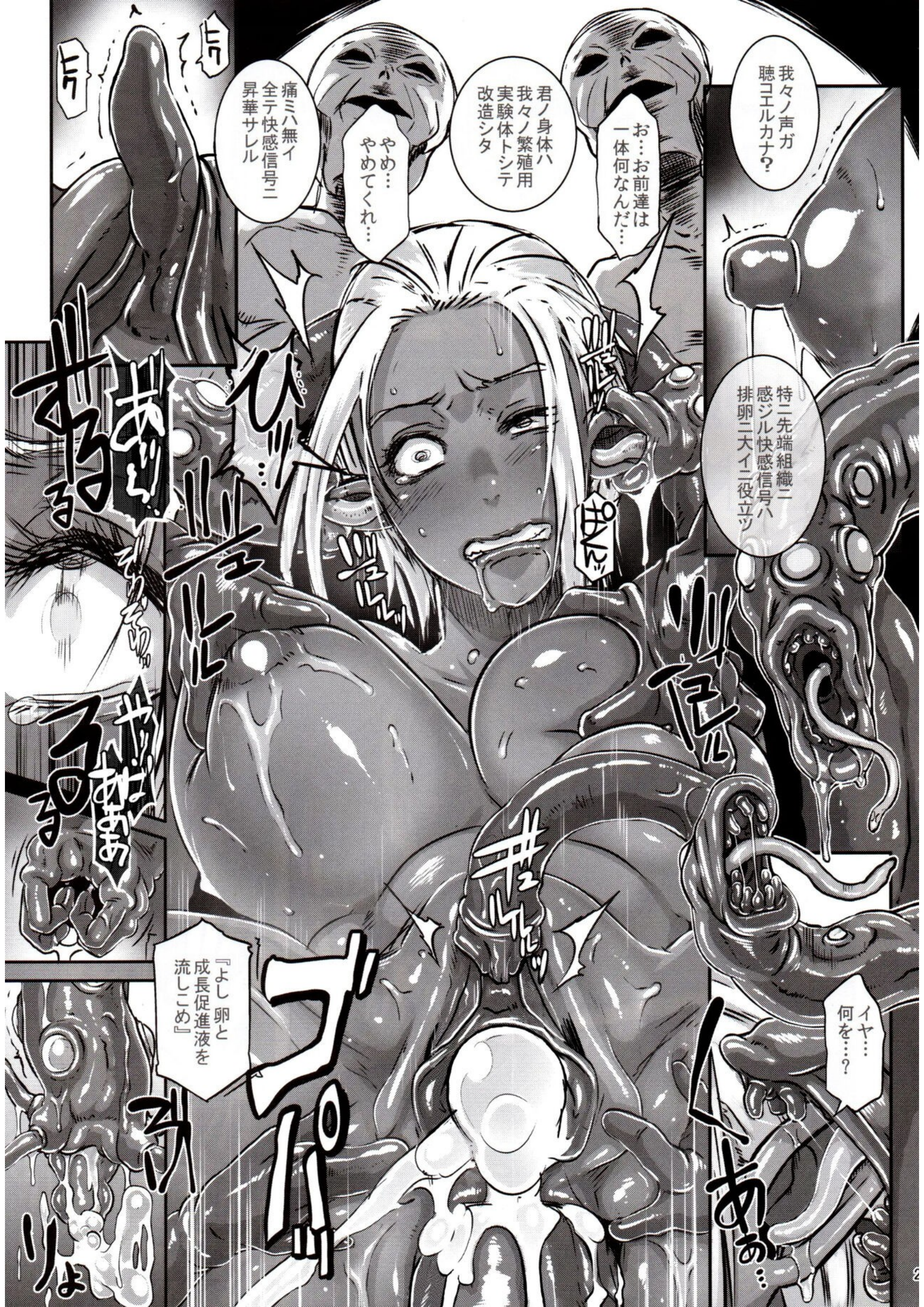

『我々の姿は生殖によって同化吸収した生物の遺伝子を元に模倣した義体だ』
『君の遺伝子情報を分析し混ざり合い繁殖する』
ピギッ
ウネ
ウネ
『先程君が斬った生物も交尾した生物も我々は一つの存在なのだ』
『我々の本体は君の体内にも注がれた生殖液… 君達の星では精液・精子と呼ぶらしいな』
あっ…ぃや
ビクッ
『しかし私の様な知性を保持できる成果は極わずか…』
ハァ…
ハァ…
『知性をもっと増やす事ができればより多くを知る事ができるが…』
『私の生殖液から分離した個体は知識を理解出来ず生殖本能に依存してしまう』
ぱぐ
『我々は長らくソレを大量に産み出せる繁殖器を探している』
なっ…ん
ビクッ
ビクッ
ずりゅ
ひ……
きっと君（この繁殖器）なら素晴らしい結果を産み出してくれそうだ

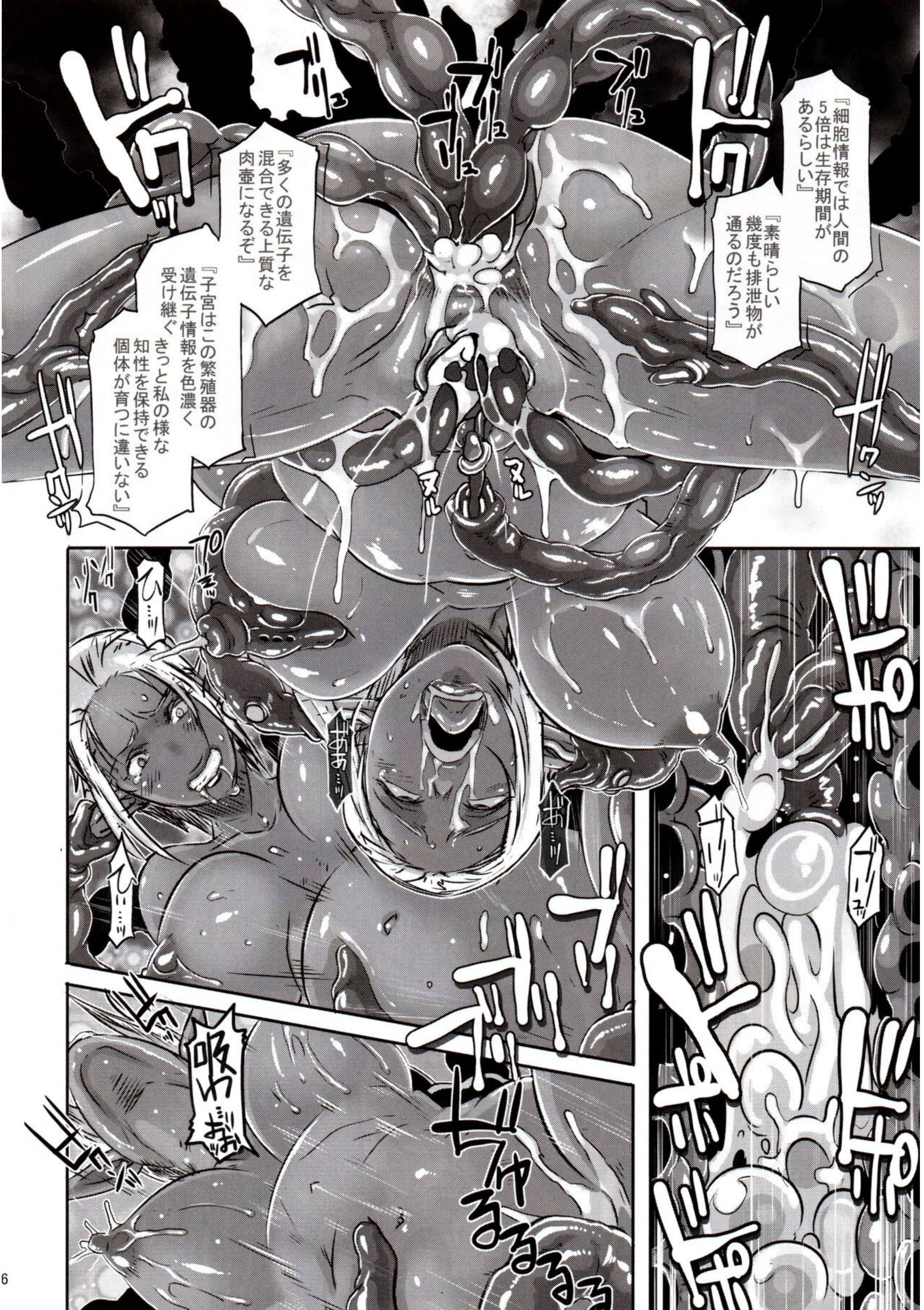

ズッ
んぐっ んぐっ
んぐっ… んぶぅ
ズッ
ドピュッ
んぐッ
ドビュッ
ドピュ
ドピュ
ドピュッ
ドピュ
んぶッ
んぶッ
じゅぽ
じゅぽ
『おお…やはり生殖用の臓器の感触を調べるには直が良い…
以前捕獲した実験体はこの行為を行ったら壊れてしまったな』
ドピュッ
もッ…もうッ…入らなッ…おッ…ごッ……ッ!!
ガッ
ガッ
おッ
ドッポ
ぐぽッ
ぐぽッ
おッおッ
ぜたぽ
ぜたぽ
ずびゅ
ずびッ
ゴッ…ぷ
んぶぉ

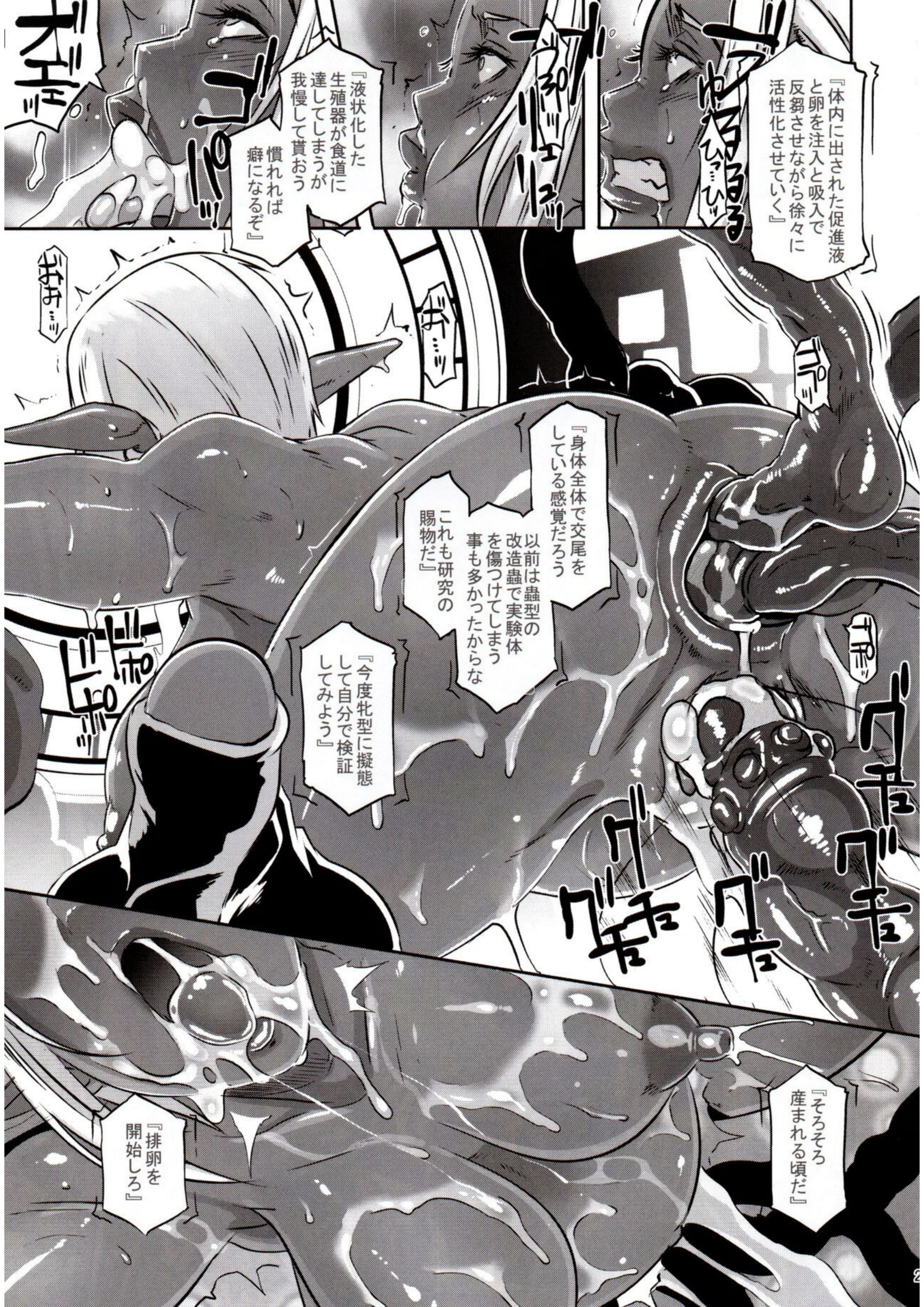

ドピュッ
うぉ…ッ
ドクッ
どん…ごッ
ごぷ
ドピュッ
どぴゅ
ドビューッ
『素晴らしい快感反応だ』
うっ…ッ
ずッ
るるっ
おえッ…
ビタッ！
ビュダダッ
おはッ…
おッ……
ピクッ
ピクッ
あぁあぁ…
『こんなに生殖液が出てしまった』
どちゃ…
ぶぴぴぴ…
『内臓の検証実験はこれ位で良いだろう　改造用ポッドの準備だ』

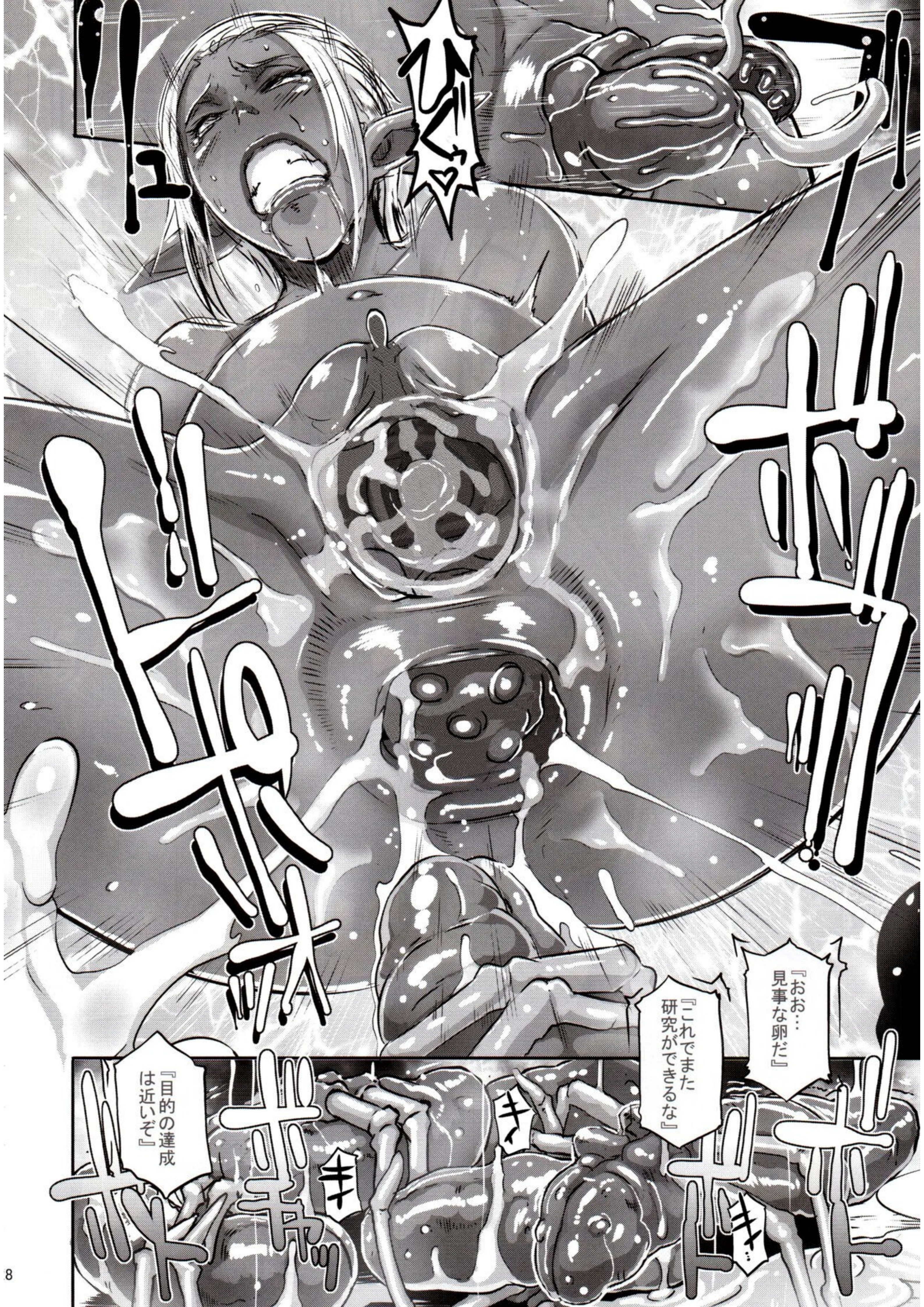

ファ…
ファーッ
『ようやく繁殖器の内部改造が済んだようだな』
ぐぐ
くちゅ
くちゅっ
ドクドクッ
ゴプッ
ゴプッ
『レベル6の生殖器も許容
着床による拒絶反応確率も皆無…素晴らしい』
うっ…
んぷ……
ビクッ
ビクッ
フシューッ
ゴポンッ
フシュ〜♥
『胃腸内の洗浄も終了した
純度の高い異星生物が育てられるぞ』
ドロ〜…
ズルゥ…

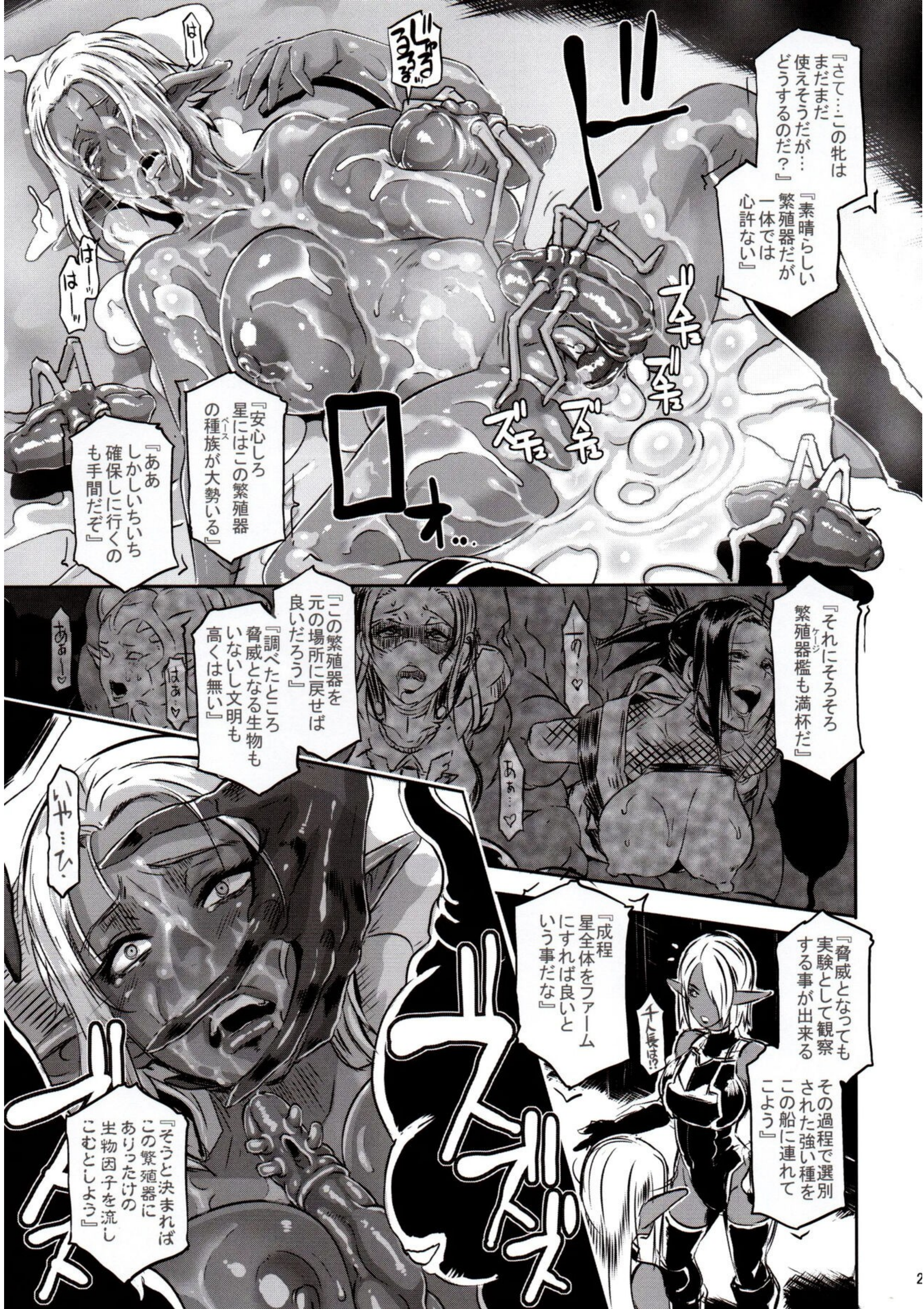

ぐぱぁ…
ごぽぉ…
『胸部陰核肥大・先端組織の快楽信号増大・胎内の排卵増加・胃腸内の繁殖用改造完了』
ズルゥ…
うぇ…ぉぇ…
『脳内の言語器官も改造した これで我々の言葉も通じるだろう』
ピクッ
ヅュルンッ
ピクッ
『それならば最初の異星生物の卵を流し込んで問題無いか？』
ボコッ
ゴウゥン…
『少し待て この繁殖器と〝交流〟してみたい』
こ…言葉が…？ 一体これは…
ゴウゥ…


我々ノ声ガ
聴コエルカナ？
お…お前達は
一体何なんだ…
君ノ身体ハ
我々ノ繁殖用
実験体トシテ
改造シタ
やめ…
やめてくれ…
痛ミハ無イ
全テ快感信号ニ
昇華サレル
ヒク
ヒク
特ニ先端組織ニ
感ジル快感信号ハ
排卵ニ大イニ役立ツ
ぽんっ
ジュルルッ
ひぃっ
ジュルル
あぁっ
ぬるる
ぞりぞり
ギャああああ
ぞろろ
ジュルルッ
ヂュルルルッ
イヤ…
何を…？
『よし 卵と
成長促進液を
流しこめ』
ブプッ
くあぁ…
ずりゅ
りょ


ドクンッ!!
ブリュ
ブリュ
ブリュ
ブリュ
『細胞情報では人間の5倍は生存期間があるらしい』
『素晴らしい幾度も排泄物が通るのだろう』
ドクンッ
『多くの遺伝子を混合できる上質な肉壷になるぞ』
『子宮はこの繁殖器の遺伝子情報を色濃く受け継ぐ　きっと私の様な知性を保持できる個体が育つに違いない』
ガクンッ
ガクンッ
ヌル
ヌル
ドポポポ
ドポポポ
ブリュッ
ああ…ッ
おぉ…ッ
プシュ
ひぃ…ッ
ひぃ…ッ
ジンジン
ブリッ
ズリッ
ズリッ
にゅるるるる
吸われ…ッおぉ
ビクッ
ビクン


『体内に出された促進液と卵を注入と吸入で反芻させながら徐々に活性化させていく』
ゾゅるるるる
ひっ…ひっ
ジュリュリュリュッ
ゴプッ
『液状化した生殖器が食道に達してしまうが我慢して貰おう 慣れれば癖になるぞ』
ゴポッ
オゴェェッ
おぉ…ッ
おおぉ…ッ
ゴプッ
『身体全体で交尾をしている感覚だろう 以前は蟲型の改造蟲で実験体を傷つけてしまう事も多かったからな これも研究の賜物だ』
『今度牝型に擬態して自分で検証してみよう』
ドポポ
ビポポッ
ボポッ
グチュグチュ
グチュ
グチュグチュ
『そろそろ産まれる頃だ』
『排卵を開始しろ』


ゴリュ!!
ひぐぅっ♡
ボゴッ
ドポッオッ
『おお…
見事な卵だ』
『これでまた
研究ができるな』
『目的の達成
は近いぞ』
キィ
キ
キキ…
ボコ
ガチャッ
ボコ


『さて…この牝は まだまだ 使えそうだが… どうするのだ？』
『素晴らしい 繁殖器だが 一体では 心許ない』
ドドロォ…
ズチュ ズチュ ズチュ ズチュ
じゅるるるるる
はー…
『安心しろ 星にはこの繁殖器 の種族（ベース）が大勢いる』
『ああ しかしいちいち 確保しに行くの も手間だぞ』
はーっ はーっ
『それにそろそろ 繁殖器檻（ケージ）も満杯だ』
あ…♡
あぁ…♡
『この繁殖器を 元の場所に戻せば 良いだろう』
『調べたところ 脅威となる生物も いないし文明も 高くは無い』
はぁ♡
あぁー♡
『脅威となっても 実験として観察 する事が出来る』
『その過程で選別 された強い種を この船に連れて こよう』
千人長は!?
『成程 星全体をファーム にすれば良いと いう事だな』
ズズズ
いや…ひ…
『そうと決まれば この繁殖器に ありったけの 生物因子を流し こむとしよう』
ブスス

数年後…ダークエルフ達が使役する 見た事も無い生物によって人間軍は 一気に劣勢に立たされた

噂によると 数年前に隊の野営地から72分間姿を消したダークエルフの女千人長が身籠った状態で発見され

その女から生み出された「生物」がその部隊を皮切りに爆発的に繁殖し見たことも無い種が次々に生まれたという

その繁殖力と敵軍の攻撃を物ともしない生命力に 学者の反対を押し切り利用したダークエルフ軍は そののち「魔族」と呼ばれるようになり――

一次的に優勢に立ったが徐々に異生物の増殖を管理し切れず世界には「魔物（モンスター）」と呼ばれる生物がはびこるようになった……

DARK ELF vs ALIEN

発行日：2015/12/31
著者　：ブッチャーU
発行　：EROQUIS!
HP　　：http://eroquis.com/
印刷　：PICO様

誇り高きダークエルフの女戦士が
エイリアン（宇宙人に）アブダクション（拉致される）!?

STORY

ダークエルフ族の軍隊を率いる千人長リサは深夜の警備中に謎の光に包まれる…そこで彼女に待っていたのは今まで見た事も無い異形の生物達との**生殖実験**だった!!
果たして彼女は**未知との遭遇**に抗えるのか!?

bu bing @comics

https://twitter.com/bubing5437

https://bubing5437.blogspot.com

https://www.pixiv.net/users/79392335